



2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算補足説明資料

株式会社アイネット
[東証プライム市場：9600]

2024年10月31日

売上高

18,875 百万円

前年同期比増減額

△103 百万円

前年同期比増減率

△0.5%

営業利益

1,025 百万円

△549 百万円

△34.9%

親会社株主に帰属する

中間純利益

1,005 百万円

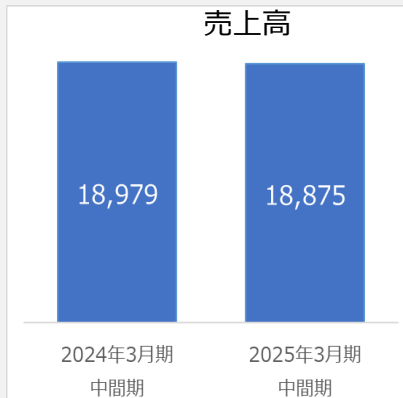
△36 百万円

△3.5%

前年同期との比較

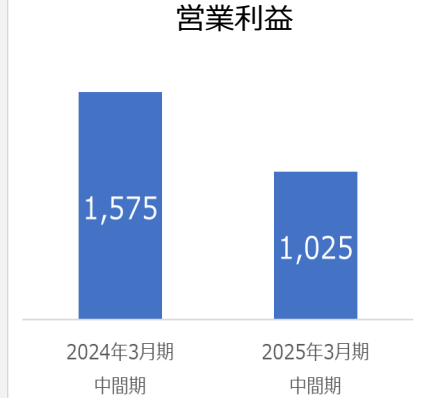
(単位：百万円)

売上高



(単位：百万円)

営業利益



予想対比進捗率

単位：百万円	通期予想	進捗率
売上高	40,420	46.7%
営業利益	3,250	31.5%

売上高/営業利益の概況

売上高は、前年同期比若干減。アイネット単独が伸びず。2Q単体では前年同期比+155百万円の9,949百万円、四半期ベースでは最高。
営業利益は、1Q不振が響き、前年同期比大幅減。但し、2Q単体では例年並みの水準まで回復。
中間純利益は、有価証券売却益634百万円の計上があり、前年同期並みを維持。

【サービス別状況】

受託計算

- SS向け情報処理は現状を維持。
- SS向け自社システムへの改修投資による償却費負担重い。販売価格反映も遅れ、収益性が低下。

データセンタークラウド

- 売上増は、主に価格改定による。但し若干遅れあり。
- 原価増（主に仮想基盤関連）への対応が進展。
- 新規案件受注も進んでおり、収益に貢献。

メーリングサービス

- 2Q受注が好調に推移し、1Qにおける売上の落ち込みをカバーした。中間期で増収を達成。

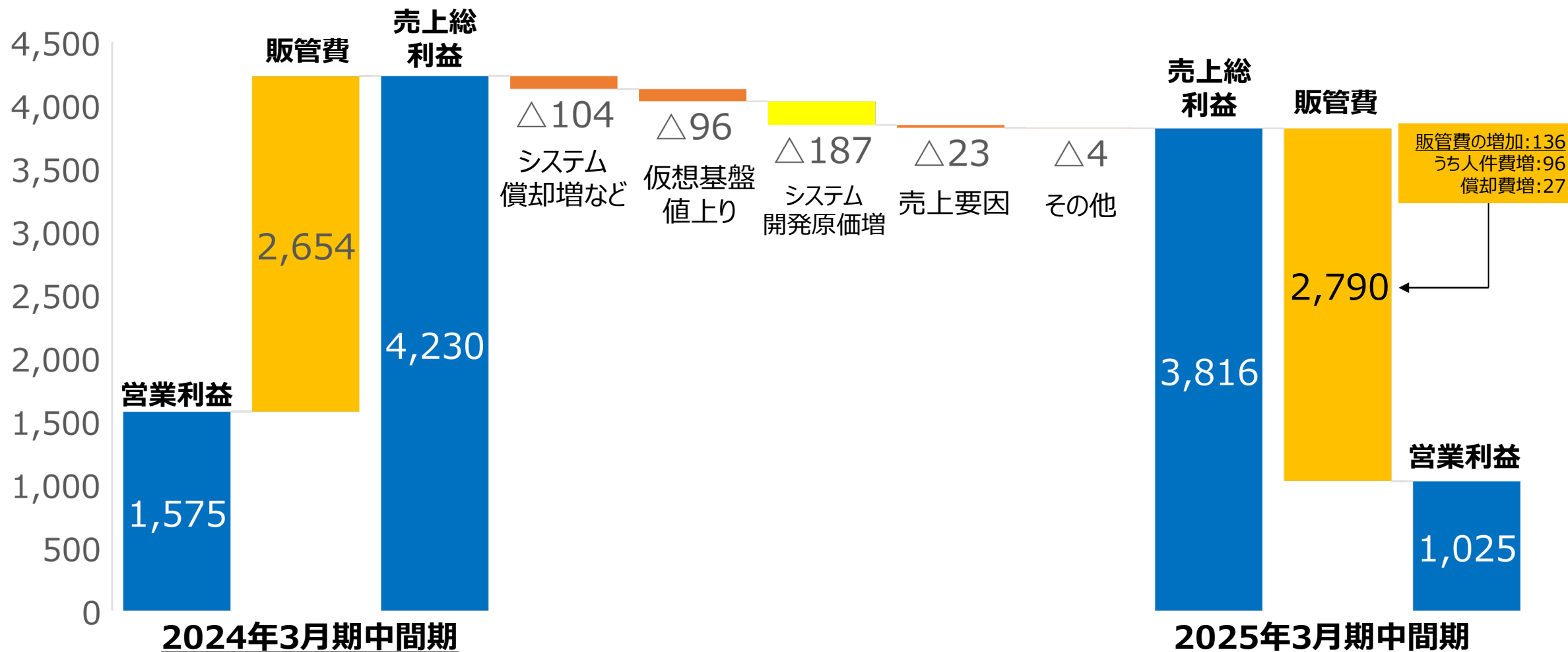
システム開発

- 1Q不振の金融業向け開発が復調、流通業向けは伸びず。一方、宇宙衛星開発は順調に推移。
- 金融系自社商品に受注の遅れ、下半期に期待。

注) 金額は百万円未満切り捨て、前年同期比増減率は小数第2位で四捨五入。

営業利益の増減分析（前年同期比）

(単位：百万円)



注) 金額は百万円未満切り捨て、増減額は四捨五入。

2025年3月期中間期の業績

(単位：百万円)	2024年3月期 中間期		2025年3月期 中間期		前年同期比		予想対比
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減額	増減率	進捗率
売上高	18,979	100.0%	18,875	100.0%	△103	△0.5%	46.7%
売上原価	14,749	77.7%	15,059	79.8%	309	2.1%	--
売上総利益	4,230	22.3%	3,816	20.2%	△413	△9.8%	--
販管費	2,654	14.0%	2,790	14.8%	136	5.1%	--
営業利益	1,575	8.3%	1,025	5.4%	△549	△34.9%	31.5%
経常利益	1,601	8.4%	1,020	5.4%	△581	△36.3%	31.6%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,041	5.5%	1,005	5.3%	△36	△3.5%	38.3%

注) 金額は百万円未満切り捨て、売上対比、増減率、進捗率は小数第2位まで四捨五入。

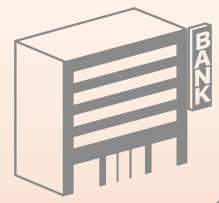
サービス区分別の売上高／売上総利益の構成

システム開発サービス

情報処理サービス

2025年3月期中間期

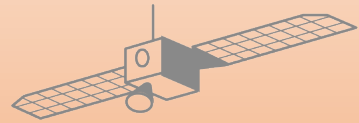
金融機関向け原価管理、
ローン・システム



商品管理、電子マネー・ク
レジットカード・ポイント管理



スマートフォンや
カーナビの機能向
上付加サービス



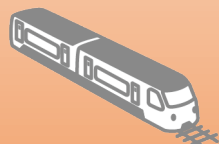
衛星の設計・組立・
検査、小惑星探査
機などの運用



航空会社の予約シ
ステム、鉄道関係の
システム構築



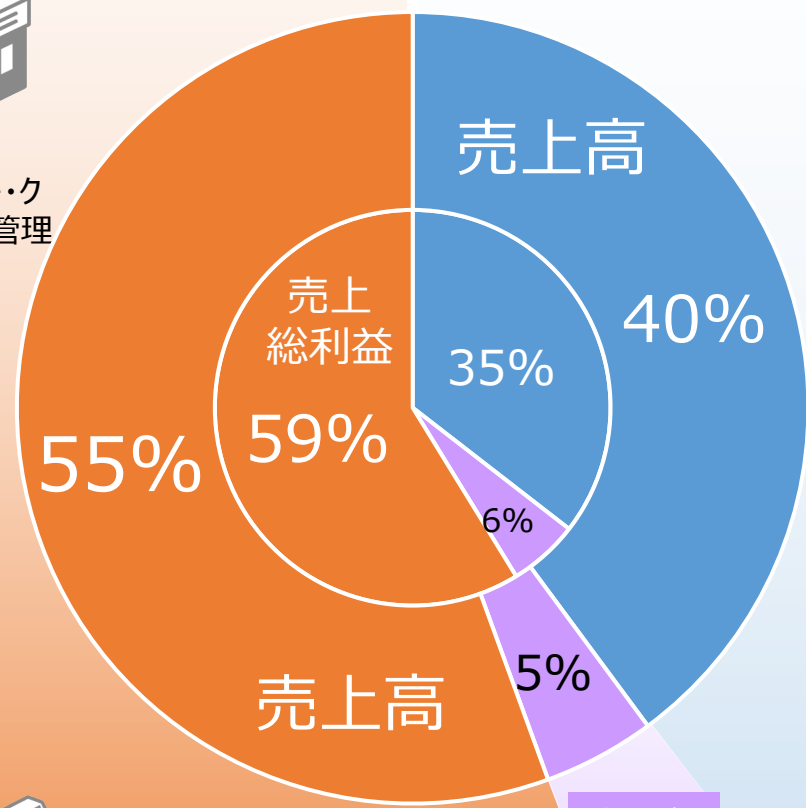
診断用装置などの医
療機器、在宅医療
機器の設計開発



製造・販売など様々な
分野のシステム開発



セキュリティ対策強化に
向けたトータルセキュリ
ティソリューション



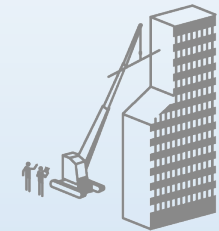
プロパンガス業者向け管理・ス
マートメーター・決済システム



GS向け計算・決済
クラウドサービス



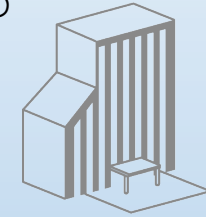
自社データセンターを
利用し、多種多様の
クラウドサービスを展開



設計施工図面の
デジタル管理



納税通知書
等のプリント、
封緘、発送



納税や年金など重
要な通知をデータ
センター内で厳密
に処理



コールセンター業務や
データ入力作業



サービスに付随
する機器販売

2025年3月期中間期 サービス別業績

(単位：百万円)		2024年3月期中間期		2025年3月期中間期		前年同期比	
		金額	利益率	金額	利益率	増減額	増減率
情報処理サービス	売上高	7,430	--	7,525	--	94	1.3%
	売上総利益	1,545	20.8%	1,354	18.0%	△ 191	△12.4%
システム開発サービス	売上高	10,725	--	10,486	--	△ 238	△2.2%
	売上総利益	2,484	23.2%	2,242	21.4%	△ 241	△9.7%
システム機器販売	売上高	823	--	863	--	39	4.8%
	売上総利益	200	24.3%	219	25.4%	19	9.7%
合計	売上高	18,979	--	18,875	--	△ 103	△0.5%
	売上総利益	4,230	22.3%	3,816	20.2%	△ 413	△9.8%

注) 金額は百万円未満切り捨て、利益率、増減率は小数第2位まで四捨五入。

データセンター・クラウドサービス

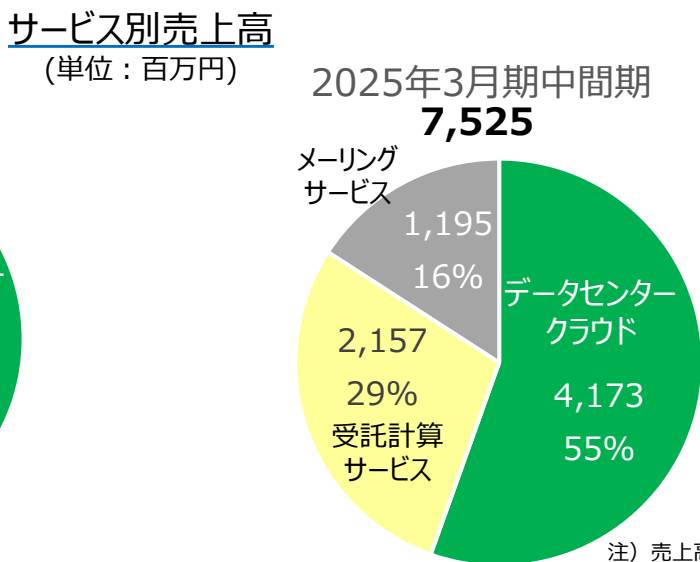
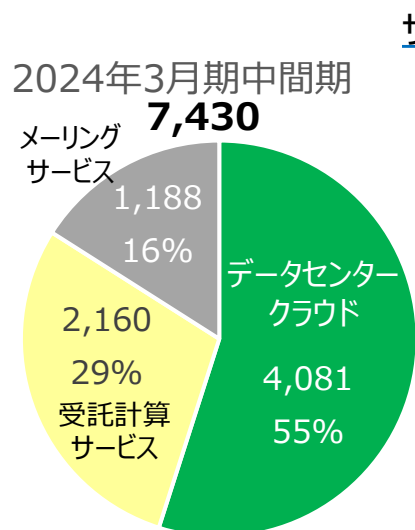
- ✓ 自社クラウドサービス
- ✓ 法人(SaaSなど)向けクラウドサービス
- ✓ 法人向けコロケーションサービス

受託計算サービス

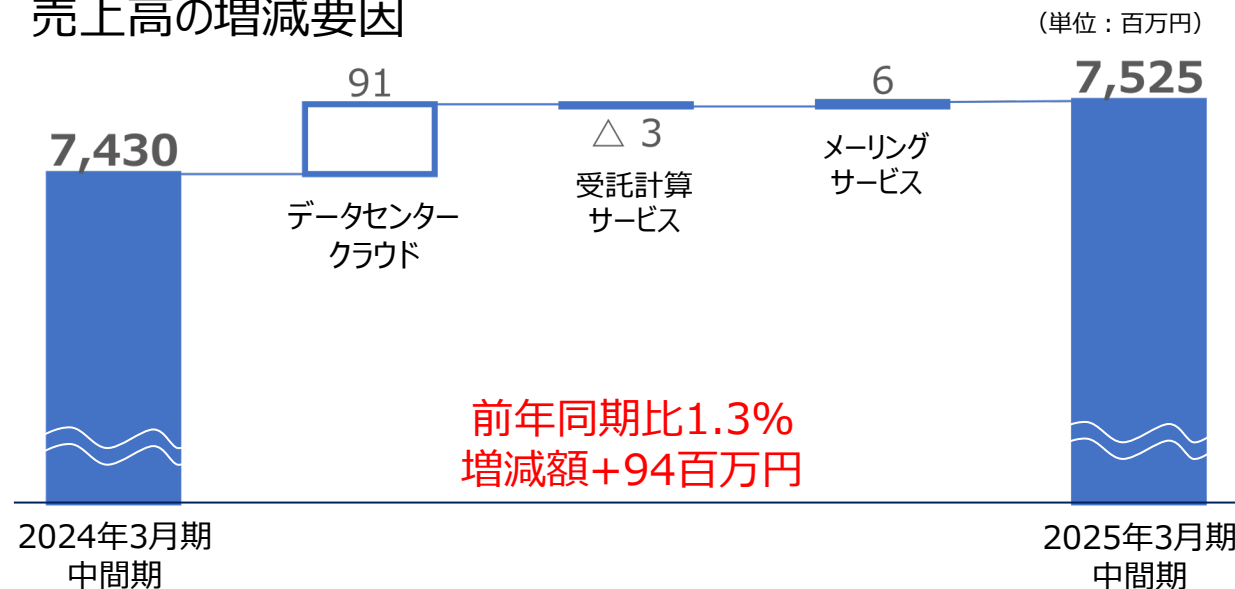
- ✓ SS (ガソリンスタンド) 向け販売管理・課金決済代行プラットフォーム (日本国内シェア約3割)
- ✓ プロパンガス業者向けスマートメーター対応の課金決済プラットフォーム (ブランド名「プロパネット」)

メーリングサービス

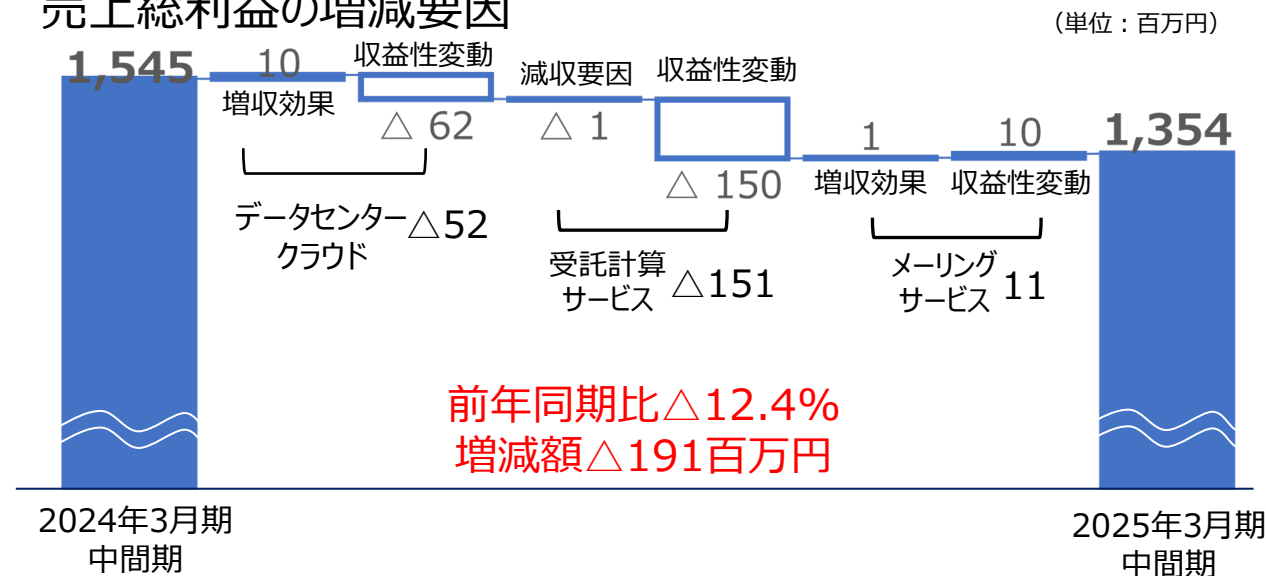
- ✓ 一般法人、行政機関向け印刷・郵送サービス
- ✓ 印刷物とメールのハイブリッド配信サービス



売上高の増減要因



売上総利益の増減要因



注) 売上高、売上総利益、増減額は、金額は百万円未満切り捨て。前年同期比増減率は、小数第2位で四捨五入。合計と内訳、増減が一致しないことがあります。

受託開発請負

- ✓ エネルギー産業関連向けシステム開発・請負
- ✓ 金融機関向けシステム開発・請負
- ✓ 交通システム関連向けシステム開発・請負
- ✓ 宇宙関連システム開発・請負、組立、検査、運用／評価解析
- ✓ 流通産業、一般法人、製造業向けシステム開発・請負
- ✓ セキュリティ関連システム導入・開発・請負
- ✓ 通信事業者向けシステム開発・請負
- ✓ 組込制御関連システム開発・請負

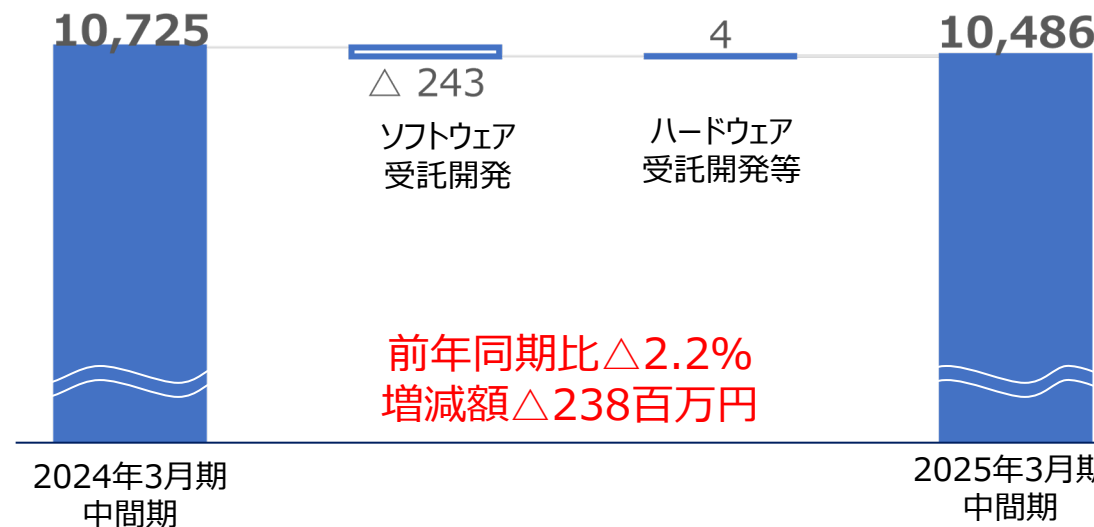
システム商品開発

- ✓ 金融系商品（無担保ローンシステム：LOAN RANGER® UC、金融機関原価管理システム：ABC Financialなど）
- ✓ クレジット決済システム（i-Gateway）Pos連動決済システム
- ✓ セキュリティ関連（脆弱性診断、Darktraceなど）
- ✓ DX関連商品（業務効率化システム各種、RPAなど）

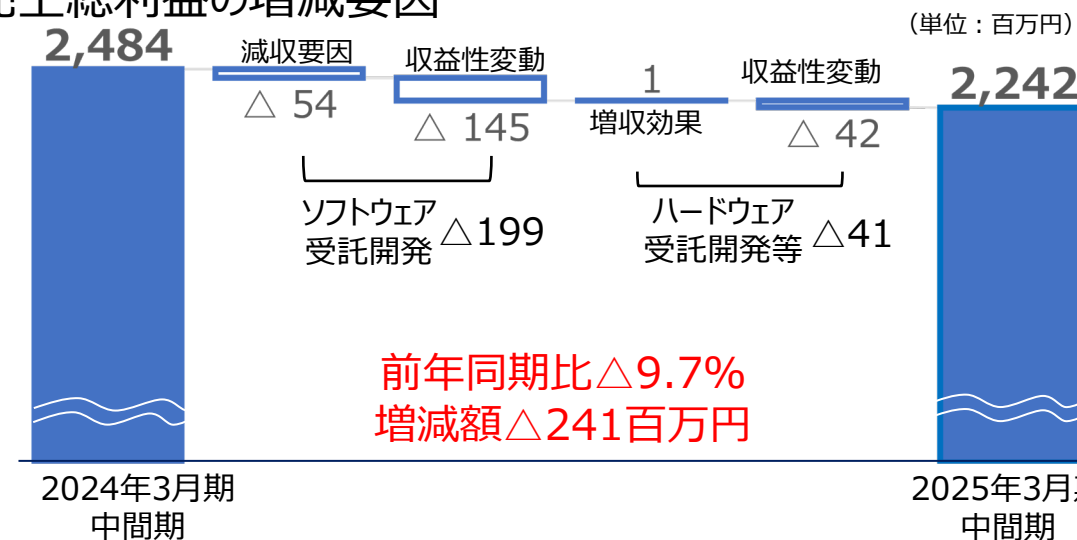
サービス別売上高

(単位：百万円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	増減率
ソフトウェア受託開発	9,785	9,542	△2.5%
ハードウェア受託開発等	939	944	0.5%

売上高の増減要因



売上総利益の増減要因



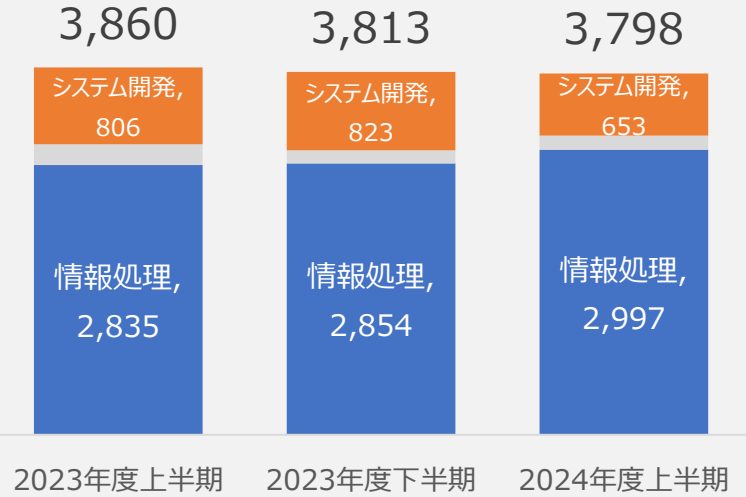
注) 売上高、売上総利益、増減額は、金額は百万円未満切り捨て。前年同期比増減率は、小数第2位で四捨五入。合計と内訳、増減が一致しないことがあります。

主な顧客業種別の売上高（参考資料）

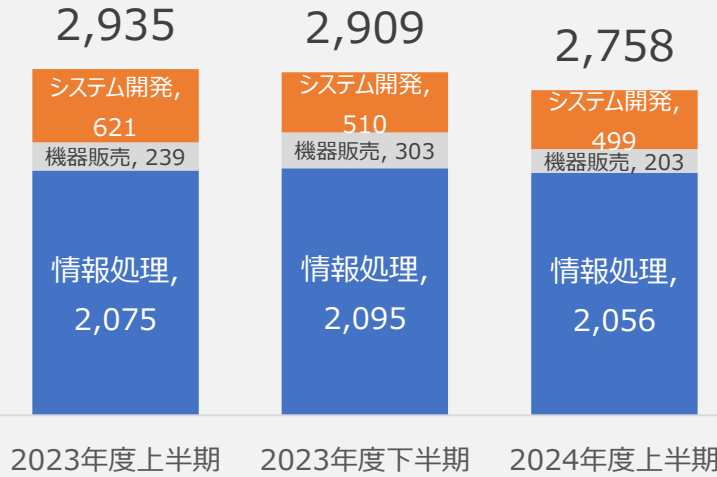
（単位：百万円）



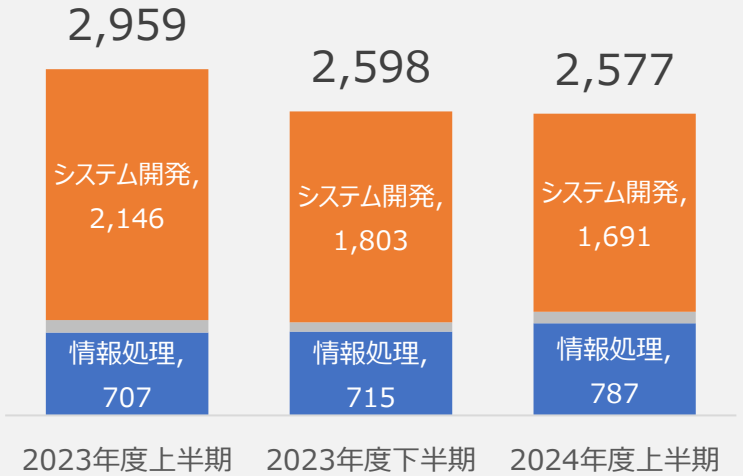
通信業/SaaSサービス業



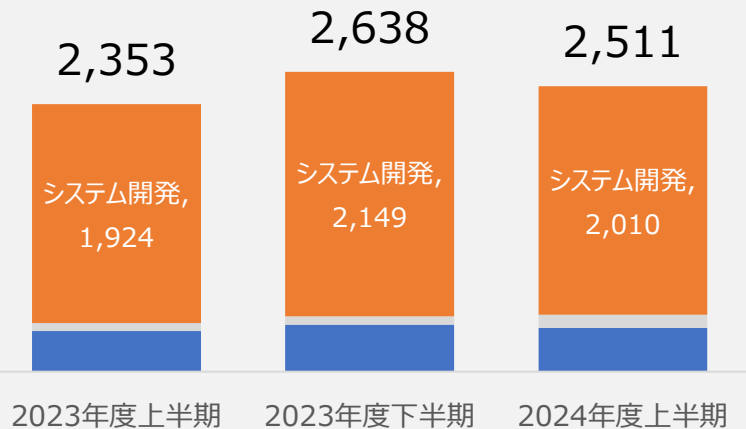
エネルギー産業



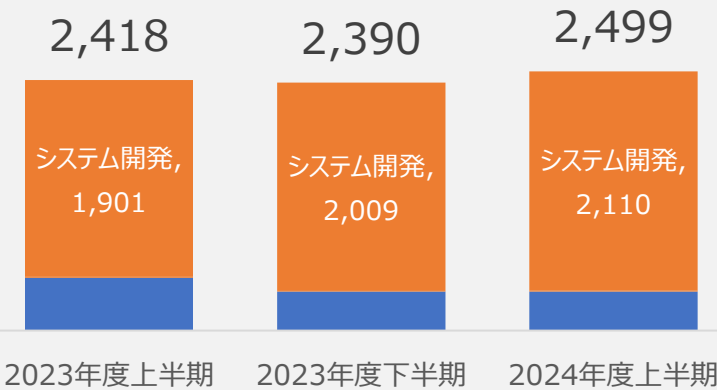
*システム開発業



金融業



製造業



宇宙/防衛産業

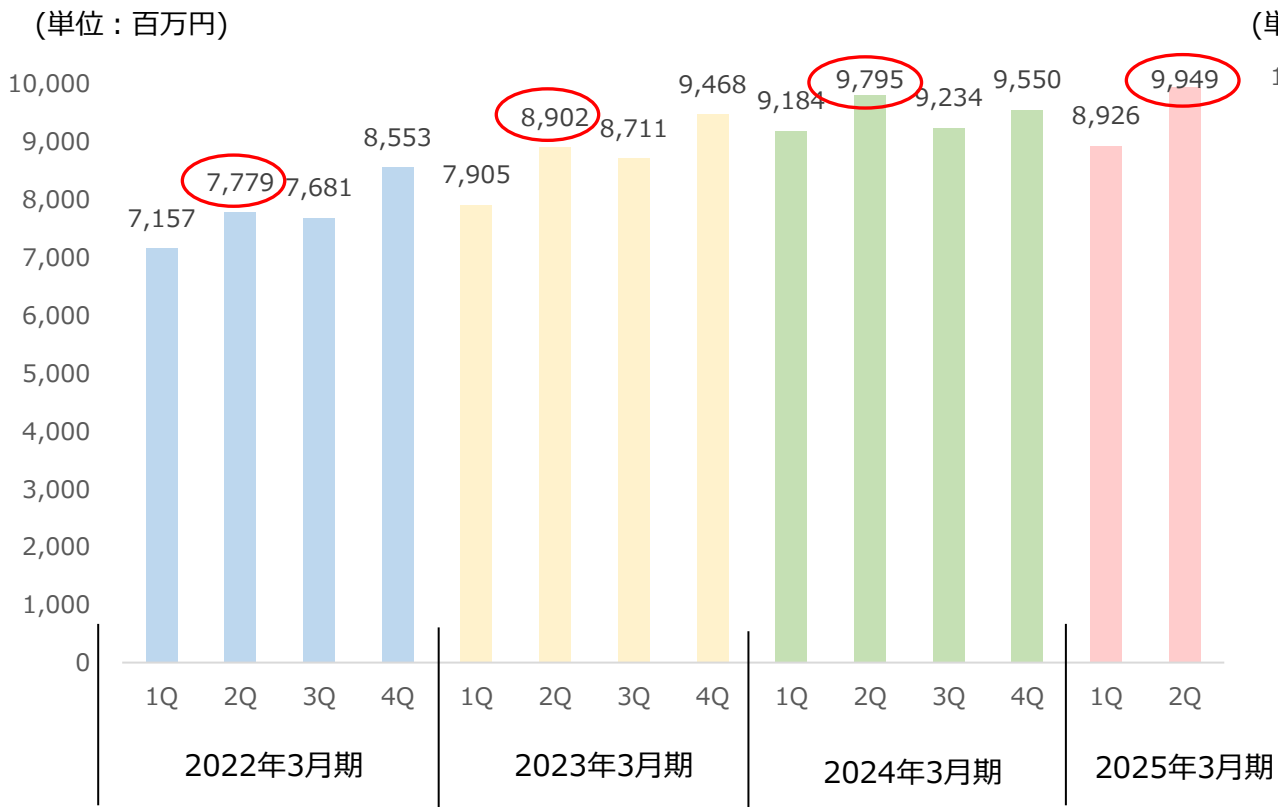


注）未監査のもの。最終顧客ベースで判断、但し「*システム開発業」は二次請け以下の流通と最終顧客の業種が判別しなかったものを含みます。

金額は百万円未満四捨五入

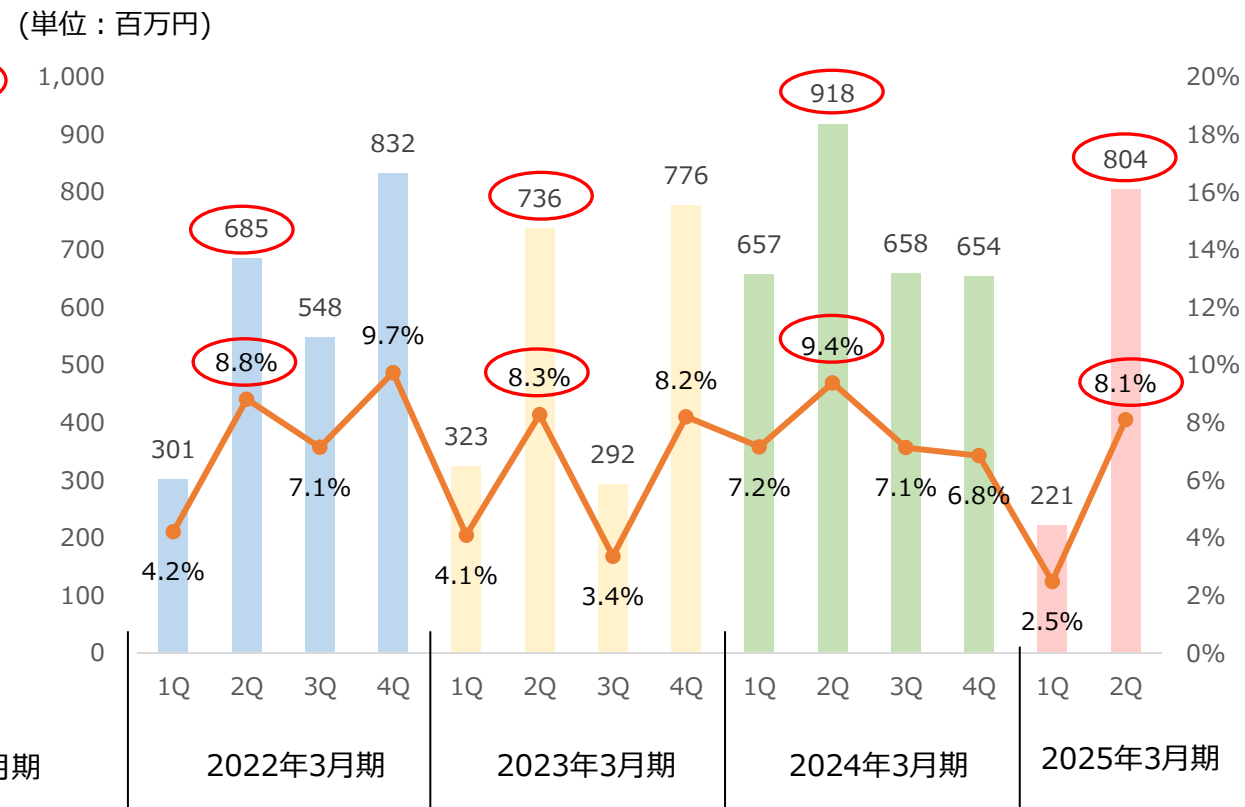
四半期業績の推移

売上高 (四半期)



営業利益 (四半期)

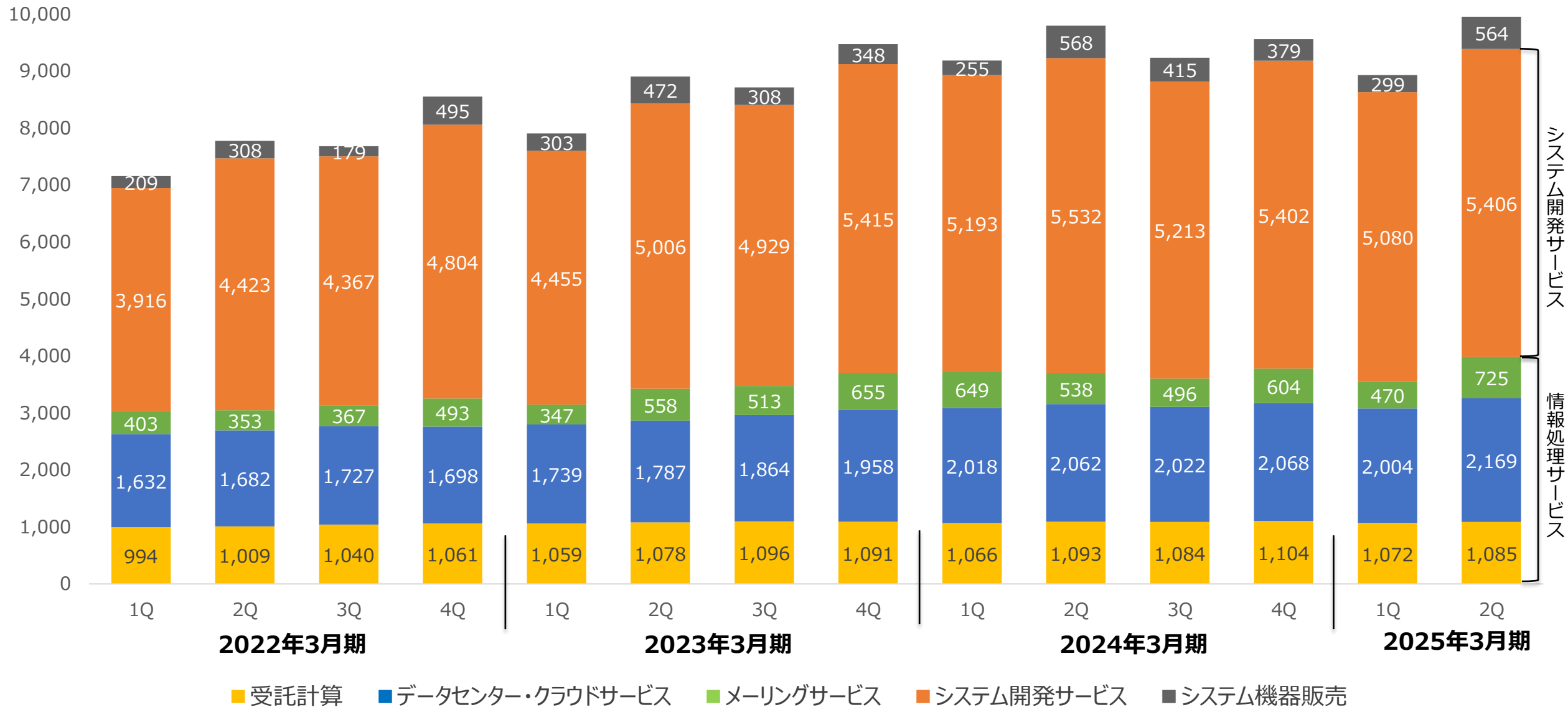
赤線は営業利益率



注) 金額は百万円未満切り捨て、前年同期比増減率は小数第2位で四捨五入。

四半期サービス区分別売上高の推移

(単位：百万円)



注) 金額は百万円未満切り捨て、合計が一致しないことがあります。

当中間期業績は、2Q単体の売上が伸びた結果、前年同期並みまで回復。営業利益も2Q単体でみると、例年並みに戻している。

- 中間期の売上高が前年同期比で伸びなかった点は期初想定の範囲内。現時点の引き合い状況を勘案すれば、通期の売上目標の達成は可能と判断。
- 当期の原価増要因である、情報処理サービスにおける仮想基盤ソフトウェアの実質値上がりや、自社システムの償却費の増加に伴う採算悪化について、主に販売価格の適正化とデータセンターの原価低減努力により、改善が進んでいる。
- システム開発サービスは、1Qに落ち込んだ金融業向け開発案件は復調。流通業向け受注は依然厳しいものの、他業種からの受注を強化しており、同サービスの損益は改善傾向にある。
- メーリングサービスは受注増を実現し、1Qの落ち込みを回復。下期受注も順調に推移している。

情報技術で*Enjoy Life*を応援します

<免責事項>

- 本資料は、当社グループの業績及びグループの事業戦略に関する情報提供を目的としたものであり、当社及び当社グループの株式の購入や売却を勧誘するものではありません。
- 本資料には、将来の業績に関する意見や予測等の情報を掲載しています。これらの情報は資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されており、その実現・達成を約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。
- 本資料を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。また、本資料を無断で複製、転載等を行わないよう、お願いいたします。



visit our website

<問合せ先>

株式会社アイネット 経営戦略・IR部

TEL 045-682-0806

E-Mail contact_ir@inet.co.jp